

情報システム信頼性確保のためのシンポジウム開催

平成22年度技術委員会信頼性部会(部会長:都丸岳行、(株)野村総合研究所)は、平成23年5月19日、「情報システム信頼性確保のためのシンポジウム」をJJK会館において開催した。関係者を含めて87名が参加した。

信頼性部会ではここ数年、定量データを用いた情報システムの信頼性向上に取り組んできた。信頼性部会は平成22年度「情報システム信頼性確保のための管理指標活用事例集」(以下、事例集)を取りまとめ平成23年3月に発表した。

今回のシンポジウムでは、はじめに信頼性の高い情報システムを実現しているベストプラクティスとして(株)東京証券取引所の古川正伸氏にご講演いただいた。古川氏の講演は、標準化への着実な取組みが骨格をなしていた。また、いわゆるWモデルと言われるテスト設計を早い段階で行う取組みなど上流工程での品質の作り込みを重視したものであった。東証の取組みは、次号のJISA会報(7月発行予定)でも紹介する予定である。

次に、加々美利彦副部会長((株)科学情報システムズ)から、信頼性部会のこれまでの取組み、事例集の紹介などが行われた。

最後に、「定量管理を活用した信頼性確保について」と題して、加々美副部会長を司会に、端山毅委員((株)NTTデータ)、黒柳鉄雄委員((株)ジャステック)によるパネルディスカッションが行われた。これは、事例集で取上げたいくつかの事例として、短納期開発やパートナーとの関係、定量データの組織的な活用法などをテーマに会場からの質問を受けながらの議論となった。

(尾股)